

市民と市長の意見交換会 2025 Sports for All

■冒頭市長挨拶

就任して3年目になり、年1回開催させていただいているこの意見交換会も3回目になります。1年目は子育て世代、2年目は学生さんとお話しをしました。3年目の今年は、スポーツがテーマです。私は大学も体育学部体育学科で、スポーツの可能性を信じてやまない、スポーツが大好きな人間です。スポーツには、生涯スポーツなど健康に寄与する、地域の人とのコミュニケーションのきっかけづくり、スポーツをビジネスとして人を集めて経済を回していく、さまざまな力があります。今日のように10代～70代の方が1つのテーマで集まれる、そんな力もスポーツは持っています。本日は副市長、企画部長も同席し、単なる意見をうかがうだけの場ではなく、皆さんのご意見をどのように市政に反映させられるか、しっかりと考えていきます。

スケートボード、野球、パドルテニス、エクステラ、ボッチャ、サッカー、6競技、8名の方に集まいただきました。



1 参加者自己紹介

■パドルテニス

60代の時に市のパドルテニス交流会に参加したのがきっかけです。以来、16年くらい夫婦でパドルテニスを楽しんでいます。通常のコートよりも小さいコートで、テニスラケットよりも小さいラケットを使用するのが特徴です。今年10月には、多治見市でねんりんピック2025のパドルテニス交流会が開催され、多くの県外の選手の皆さんと交流できました。開会式では選手宣誓を務めました。

■スケートボード

・中学生の頃から30年近くスケートボードを楽しんでいます。これまでは、近所の公園でスケボーをしていましたが、狭くて危ないと感じており、自分たちで署名活動をし、市にも要望を出し、管理方法を提案するなど活動してきました。令和6年4月にTYKスポーツパーク多治見(多治見運動公園)内にスケートボードパークができ、現在はそこで活動しています。スケボーの魅力は、幅広い年代で楽しめることだと思います。高校生から50歳代まで、多くの年代が楽しんでいます。ジャムセッションのイベントでは約80人の参加があり、見学者も含めると300人規模のイベントになりました。

・中学生の頃からスケートボードをやっており、できる場所を色々なところで探していました。スケートボードパークができ、家の近所にスケボーができる環境ができてとても嬉しいです。色々な年齢の人と交流をしたり、上手な人に教えてもらったりしています。スケボーの魅力は練習を積み重ねることで技術を向上させていくところ、またファッションでも自分の個性を出せるところが楽しいです。1番の魅力はいろいろな人に出会えることです。

■エクステラ

小さい頃から水泳に親しんできました。もともと体が弱かったのですが水泳のおかげで体が強くなりました。今私が楽しんでいるエクステラという競技は、水泳、マウンテンバイク、トレイルランニングの3種目を1人の選手が連続で行う、オフロード版トライアスロンです。通常のトライアスロンとは異なり、舗装された道ではなく、自然環境（海、山、オフロード）の中で競技を行うのが特徴です。このあたりでは、中津川市で大会が行われています。

■野球

高校時代から軟式野球をやっていました。子育て中に声をかけていただいたのがきっかけで、スポーツ少年団に関わるようになり、現在、スポーツ少年団の本部長をやっています。岐阜県のスポーツ少年団の発展のためにやってきました。日本スポーツ少年団は日本最大の青少年スポーツ団体ですが、年々、団数が減っています。岐阜県の団員数は、10年前の27,000人から、現在14,000人、約半分にまで減りました。市内のスポーツ少年団は野球のみで団員数は61名です。「スポーツの楽しさを子どもに伝える」「スポーツをとらえて、青少年の健全育成に寄与する」「スポーツを通じて人々をつなぎ地域に貢献する」という3つの理念があります。

■サッカー

現在、2021年に創業した株式会社ブルーベリーで、相互型地域スポーツクラブという形で、多治見を中心に、陸上、サッカーのトップチームの活動をスタートさせています。私自身、もともと10年ほどプロサッカー選手として活動してきました。サッカーを引退した後のセカンドキャリアという、プロスポーツ選手が抱える課題解決に向け、チームが選手のセカンドキャリアを支援するというコンセプトのもと、ボイジャーズというチームを立ち上げました。現在スポンサーとなってくださっている企業で実際に選手たちが働いています。現在私を含め9人が、市外から移住してきています。働き手不足の解決と多治見市への移住の促進を、地域の活性化につなげたいと考えています。子どもたちへの支援ということで、8月から月1回、子どもたちに色々なスポーツに触れてもらうイベントを行っています。サッカー以外にも、野球、ゴルフ、陸上、卓球、体操、ラクロスなど、「上手くなる」ことが目的ではなく、スポーツを始めるきっかけにつなげることを目的としています。

■ボッチャ

日頃、太極拳やボッチャを楽しんでいます。市の健康推進委員も務めて市のウォーキングイベントなどにもかかわっています。ボッチャは、審判の資格をとって、小学校に行って審判なども務めています。太極拳は友人に誘われて20年やっています。鍛えているので若い方よりも歩くのが速いです。

老人会の集まりで、たまたまボッチャのセットを見かけて、やってみようと思ったのがきっかけです。市には現在、TYK 体育館とひまわりサロンが主催の二つの大会があります。ボッチャは夏場の暑い時でも室内で楽しめるのが魅力です。去年は、小学生向けのボッチャ教室をしました。その時の子どもたちの熱気が忘れられないです。ぜひいろいろな小学校に展開してほしいと思っています。先日、練習会をやったのですが、初めて参加した方もできました。誰でもできる、それがボッチャの魅力です。ただやりだすと奥が深いのも魅力です。誰でもできるという点で、地域のつながりをつくるのにより種目だと思います。

2 市と一緒に考えていきたいこと、私が実現したいこと

・一緒にスケボーをしている仲間と目標にしていることがあります。スケートボードパークを大きくすること。もう少し大きいジャムの大会を企業の協賛もあつめて、人が集まるイベントをしたいです。先ほど300人ほどのイベントができたこととお話ししましたが、1,000人くらい集まるようなイベントができると思います。多治見といえばスケボーのまち、と思ってもらえるように活動を広めていきたいです。

→ 市長 はじめは、正直こんなに人が集まる競技だという感覚がありませんでした。皆さんが真

剣に取り組んでいる様子でイメージが変わりました。

・ゆずりあってスケートボードパークを使っています。まだまだスケボーは世の中に理解されにくいスポーツなのかなと思う。僕たちがひたむきに競技に取り組み、パーク使用のマナーもきちんと守っている、現状をみてもらい、もっとスケートボードという競技が注目され、みんなに広がっていくといいなと思います。

→市長 前向きに競技に取り組む、市の施設を大切に使っていただく、そんな利用者の姿が皆さんの理解につながり、市の取り組みにもつながりやすくなります。

・日本スポーツ少年団が、2028年を目標に相互型地域クラブとスポーツ少年団を一緒にすることを検討しているようです。子どもたちがスポーツに触れ合うことは、人とのつながりや、社会貢献につながると思います。子どもたちがスポーツに親しむ機会を提供できるよう、団体のあり方や施設費等の助成など行政にも協力をお願いしたいです。

→市長 各スポーツの団体は競技をする方たちだけでなく、裏から団体を支えてくださっている皆さんのおかげで成り立っています。深く感謝しています。競技人口が減っていく中で団体を維持することはむずかしいという現状があります。市でも文化スポーツ課を窓口にしっかりと支えていきたいと考えています。

・私たちの地域のクラブでは若い人たちも参加できるよう、夜の時間に活動時間を設定しましたが、高齢者は昼間に活動したいということで、夜の参加者が大変少ない状況です。かつては10代～20代の参加者も8名ほどいましたが、現状1名しかいないです。市外からの参加者も含めてなんとか維持している状況で、何とか続けていきたいと、体験イベントなどを開催して頑張っています。

→市長 子どもたちだけでなく、一般の方のクラブ、サークルもの存続も厳しい状況にあることがよくわかりました。クラブ活動をとおして、多くの方に地域の方に出てきてもらって一緒に活動する、というのは地域のつながりにも非常に大切なことだと思います。わたしたちもPRなどに協力できるよう考えていきます。

・今日、TYK スポーツパーク多治見（多治見運動広場）に来て、スケートボードパークなどができてすごく変わっていて驚きました。競技をされる方たちで署名を集めるなど積極的に活動された結果と聞いてすごいなと思いました。喜多緑地にマウンテンバイクのコースを整備できないかと市に相談したことがあり、その時は、防火林の指定の関係で難しいという回答をいただきました。多治見市は「暑い」イメージが先行していますが、自然を楽しむには魅力的な場所がたくさんあります。もっとポジティブなイメージを打ち出すこともできるのではと思います。

・エクステラは3種目あるのですが、特に水泳は体に良いと思います。多治見市は市民プールがなく、市と連携した開放などもあり民間のプールが混んでいます。学校のプールを開放できないのかなと思います。

→ 市長 市民プールがないので、民間のプールを活用する「Copin de プール」という取り組みを行っています。良い施策として全国若手市長会でも高い評価をいただいています。水の事故が多く、ボランティアの方にお任せしたときに、誰がその責任を取るのか、など管理面で課題が多く、学校のプールの開放というのは難しいです。ただ、水泳は、わたしも体にとってもいいと私も思っています。民間の力もお借りしながら、市民の方に水泳を楽しんでいただく機会の創出に引き続き取り組んでいきます。

喜多緑地の山の中は人が入らないと生い茂ってしまうのでぜひ整備をしてほしいです。遊歩道はランニングにすごくいいです。エクステラの大会で走る海外の林の中と雰囲気がよく似ています。空気がすごくいいので、ぜひ生かして欲しいです。

→市長 現在子育て支援に力を入れていて、喜多緑地は来年度遊具を入れて都市公園化を検討しています。いただいたご意見は参考にさせていただきます。

地域のスポーツに積極的に参加してくれる人がいる一方でなかなか声をかけても出てきてくれない、参加してくれない人がいます。そういう方たちにもぜひ出てきていただいて、地域みんなで触れ合えるといいと思います。ポッチャには年連制限もない、誰でもできるのが本当に魅力だと思います。

→市長 ポッチャの大会では社会福祉協議会に助けていただいていますし、今年からサロンでは健康マージャンというものにも取り組んでいます。高齢者の方が集まりやすいような取り組みを色々と考えていきます。

広報で、いろいろな大会の結果を掲載していただけると競技に取り組む人のモチベーションにつながるのではと思います。市民の皆さんにより多く活動を知っていただくためにも、そういった機会を作っていただけると嬉しいです。

→市のスポーツ協会が「TASA」という冊子を作成しています。情報提供いただくとそちらに掲載してもらえますので、ぜひ積極的に活用してもらえるといいと思います。活用していただけるよう、市として周知に取り組んでいきます。

元気な女性が多くて、わたしのサークルにはどんどん人が集まってきています。色々な活動に参加

できる機会があり、今のところ、すごく満足しています。

→市長 市民の方がスポーツに触れ、親しむ機会を市としてもたくさん作っています。市の情報をよく知っていただいている方には大いに活用していただいているようで嬉しいです。ただ、そういった取り組みを知らない方のために、市の色々な制度やイベント、取り組みについて、もっと情報発信をしっかりしていかなければと思いました。

・わたしは、県外から移住してきました。引っ越しを決めたとき、周りの人に「あの暑いまちだよね?」と言われました。これから、スポーツと教育が充実しているまち、として知られるまちにしていきたいです。選手たちが今、子どもたちのサッカーチームに赴き無料で一緒にサッカーをするという取り組みをしています。地域の事業者と一緒にあって地域貢献していくところを含め、選手たちが子どもたちのいい見本となれるよう、いい選手を、そしていい人財をこの地に集めることがわたしたちのミッションだと考えています。

・サッカーだけでなく、さまざまな種目で展開していけたらと考えています。若い指導者の不足が課題と感じています。働きながら、選手を派遣するなど、他の地域もまだ取り組めていないことに取り組んでいきたいです。

・スポーツ体験の場が少ないと思う。やってみないと楽しさがわからないと思う。共働きの親が増えていて、親の都合で子どもがスポーツできないこともあると思います。子どもたちにスポーツに触れ、楽しむ機会を提供していきたい。

■市長まとめの言葉

いただいたご意見、しっかりと受け止めさせていただきます。情報発信をしっかりしていくようにしていきます。スポーツと触れ合う機会を多く作っているつもりですが、情報発信の形態が多様化しており、色々な世代に伝わる情報発信をしていく必要があると、あらためて感じました。

各分野で皆さん積極的に関わっていらっしゃるので引き続き、こういった活動をつづけながら、「市民が主役のまちづくり」に取り組んでいきたいと思っています。

